（別紙様式２）
令和元・２年度「環境のための地球規模の学習及び観測プログラム」（グローブ）推進事業　中間報告書

多摩市立連光寺小学校

問い合わせ先：電話番号　042-373-1920

Ⅰ　学校の概要

１　児童生徒数，学級数，教職員数

（令和２年３月現在）

児童数：383 名

学級数：12

教職員数：21 名

２　地域の概況

本校は多摩丘陵に面しており、近くに都立桜ケ丘公園があるなど緑の多い自然環境である。保護者・地域の方も学校の教育活動に協力的である。

３　環境教育の全体計画等

１、２年生は生活科において、自然体験やヤギの飼育を中心に、主体的に取り組むことを指導する。３年生からは総合的な学習の時間を中心に、地域の自然環境や文化、社会体験を行い、地域理解を深める。４年生は、多摩川に至る水環境の調査や清掃活動を行う。５年生は周辺の里山学習を行い、炭焼き体験も行う。６年生は再生可能エネルギーと SDGｓについて取り組む。

環境委員会はグローブ活動を行い、気象観測や資源回収、花壇整備などを行っている。

Ⅱ　研究主題

教育課程全体で取り組む ESD・環境教育の実践と教育活動の工夫　評価の工夫と改善

Ⅲ　研究の概要

１　研究のねらい

長年、地域の自然や社会のリソースを活用した生活科・総合的な学習の時間等の実践を通じて ESD に取り組んできた本校の教育活動にグローブ活動を位置付け、学習活動の更なる充実と各教科等の連携による広がりをもたせることとともに、活動成果をどのように評価するかを研究のねらいとした。

２　校内の研究推進体制

（１）研究推進体制

校内研究部を中心に、理論面は研究部が、実践面は各学年で行った。グローブ活動は環境委員会の指導教員を中心として進めた。

（２）観測体制

グローブの気象観測は、児童の環境委員会が担当している。毎日 10 時 30 分に、百葉箱に設置した最高最低温度計や湿度計、雲量計、簡易雨量計を使って観測している。また、特徴的な雲の写真を撮るなどしている。教員は、児童の指導とグローブ本部へのデータ送信を行っている。

（３）観測機器の設置状況

百葉箱に設置した最高最低温度計と湿度計を活用している。今年から簡易雨量計で降雨量を測定している。また、雲量観察ドームを校庭の真ん中に置いて雲量を測っている。データは廊下のホワイトボードに掲示し、全校児童が見られるようにしている。デジタルカメラで撮影した雲の写真や気象データを発表に使った。

簡易雨量計による降雨量の観測

雲量計での記録

３　研究の内容

（１）グローブ活動の教育課程上の位置付け

ESD カレンダーを作成し、各教科と生活科・総合的な学習の時間を中心に関連をもたせ、理解・把握している。このカレンダーにグローブを位置付けて取組を進めた。

（２）グローブ活動を活用した教育実践等

グローブ活動は環境委員会が行っている。活動の結果や取組について環境委員が、児童朝礼や生活科・総合的な学習の時間発表会で全校児童に伝えている。これまでの気象観測で得られた気温や雲量などのデータから、少しずつ平均気温が上昇していることを説明した。

また、観測データを活用して、算数のグラフづくりなどに活用した。

生活総合発表会でグローブ活動を発表する環境委員

Ⅳ　研究の成果と第２年次に向けての課題

研究授業によって実践成果の確認を行うとともに、児童の意識調査をルーブリックを用いた評価、ポートフォリオ評価を活用して、本研究について分析・評価した。活動前後のルーブリック調査結果を比較すると、持続可能な社会づくりに対する意欲は変わらず高いが、責任感、社会参画力、結果をまとめる力、発信力、多面的思考力、内省的思考力などに意識の高まりが顕著にみられた。持続可能性への理解や取組は成果であるが、児童の主体性と表現力の一層の向上が課題である。

また、ポートフォリオ評価については、評価方法を教員が掴んだ状態であり、十分に活用するためには、読み取り方の工夫が必要である。次年度につなげて研究を継続したい。

Ⅴ　研究第２年次の活動計画

児童の主体性と表現力を向上させるために、他校との交流を多くしたい。具体的には、同じ小学校のグローブ校である他県のグローブ校などが考えられるが、グローブのネットワークを活用して海外の小学校を探すことにも取り組んいく。また、次年度もユネスコスクール大会や環境教育研究大会で広く研究成果の普及を図る。

児童が自ら測ったデータを基に、学習活動を行うことは、児童の興味・関心を高めることにつながる。気象観測などの客観的なデータを基に、環境の変化を考える素地を育成することができるよう、各教科や総合的な学習の時間での一層の活用も図りたい。擬態的には、算数のグラフの単元で、グローブ活動の成果データを活用し、グラフの作成に取り組んだり、総合的な学習の時間では、高学年が地球温暖化について調べる活動の中で、学校の観測データはどうなっているのか調べたりすることを通して、身近なデータを活用し、児童の興味・関心を高め、環境の変化を考えるようにしていきたい。

評価方法について、ルーブリックの活用については一定のめどが立ったので、ポートフォリオ評価の読み取り方について研究を進めたい。また、作文の分析方法として、テキストマイニングも活用することを試行してみることとする。

環境委員会が作成している日々の観測結果